

## 第 299 回 定例オープンセミナー（2023/7/26）資料

## 題目：バイオ炭を使った農地炭素貯留と環境保全エコ・ブランド

クルベジ COOL VEGE<sup>®</sup>

発表者：柴田 晃（立命館大学 OIC 総合研機構日本バイオ炭研究センター・教授）

関連ミッション：ミッション 1（環境診断・循環機能制御）

ミッション 4（循環材料・環境共生システム）

## 要旨：

次の目次に沿ってバイオ炭 CCS とその社会実装について述べる。

- (1) はじめに CO2 削減における世界の動き
- (2) 日本の方針としての二酸化炭素削減目標
- (3) カーボンニュートラルとカーボンプラスに対するカーボンマイナス（炭素循環）
- (4) CDR(Carbon Dioxide Reduction) 二酸化炭素削減技術における除去技術
  - (4) -1 二酸化炭素削減の方法の多様性
  - (4) -2 炭素回収・貯留技術 CCS (Carbon Capture & Storage)における
- (5) カーボンマイナスプロジェクト Carbon Minus Project
  - (5) -1 日本における社会的背景
  - (5) -2 J-クレジット制度方法論 バイオ炭埋設 (AG-004)
  - (5) -3 カーボンマイナスプロジェクト社会スキーム（社会実装に向けて）
- (6) バイオ炭利用による農地環境保全ブランド育成
- (7) バイオ炭の作り方（製造機械等）
- (8) バイオ炭農地炭素貯留による J-クレジット (AG-004) について
- (9) 日本バイオ炭コンソーシアム

## バイオ炭を活用したカーボンマイナスのプラットフォームとビジネスエコシステム

## COOL VILLAGE 構想の基本

立命館PJ  
2021.1.27